

海上の森自然観察会

テーマ 林の中で虫をさがしてみよう

日時 2013年8月17日(土)10:00~14:30(晴)

参加者 一般2名(子ども0)、指導員:9名

このところ猛暑が続いています。木陰が多く少しでも涼しいコースをと、篠田池から奥の湿地方面を回ることとしました。このコースだと、今の時期、マユタテアカネ、ヒメアカネといった小型のアカトンボが林の中で見られるはず。この2種の見分け方を学ぶことを狙いとしました。

出発前に駐車場奥のイヌコリヤナギについた虫こぶのヤナギシントメハナガタフシを見ました。昨年、枯れたものを見つけ、いつ頃に虫こぶがで始めるのか気にかけていました。これはタマバエの仲間が作る虫こぶですが、緑色のバラの花の形をしていて、ちょっと見たところでは虫こぶとは思えません。まだ成長途上で直径1cm弱といったところでした。

駐車場から歩き始めると、ミヤマアカネが草に止まっていた。これもアカトンボの仲間ですが、羽の先端よりやや内側に褐色帯があるので、すぐ見分けられます。歩いているとコオニヤンマがメンバーの帽子に止まりました。その後、枝に止まったところをタモで捕獲し、しっかりと形状を観察しました。

四ツ沢でオオヒキヨモギの花を見て、篠田池に向かいました。池の手前のササの葉にマユタテアカネとヒメアカネが止まっていた。どちらも小型で、胸部側面の模様もよく似ています。両者を捕獲して顔の眉斑、胸部上面の模様、尾部付属器の形などで違いを確認しました。

篠田池では水面に突き出した棒の先端に止まっているウチワヤンマを見ました。ここはまだタイワンウチワヤンマは進出していないようで、見られた3頭ともウチワヤンマでした。篠田池で小休憩の後、林道に向かう途中にケンポナシの木があります。昨年は実をつけませんでした、今年はたくさん実をつけており、秋が楽しみです。若い果柄をかじってみましたがい味がしました。さらに進むと、道端にシマジタムラソウが青紫の花をつけていました。よく見ると、雄しべが花弁から外に出ています。これがアキノタムラソウとの違いということでした。

下見の時にヒグラシについたセミヤドリガを見たので、スギ・ヒノキの人工林でヒグラシを探しましたが見つかりませんでした。その近くでUさんが捕まえたツクツクボウシをよく見るとセミヤドリガの幼虫がついていました。セミに寄生するガの幼虫でヒグラシにつくことが多いのですが、アブラゼミやツクツクボウシでも見られることがあります。

昼食後、奥の湿地に立ち寄りしました。ちょうどミミカキグサ、モウセンゴケなど湿地特有の花が見頃で、地上をヒメタイコウチが歩いていました。大正池に向かう途中、サンコウチョウの鳴き声が聞かれ、しばらく姿を探しましたが、出現しませんでした。大正池では藻が腐敗したのか異臭が感じられました。近くではアカトンボの仲間のリスアカネが見られましたが、全てみでした。早はどこにいらっしゃるのでしょうか。海上の里のサテライトで休憩していると、ナガバノコウヤボウキが咲き始めたという写真がありましたので、物見山登山口近くで花を見て駐車場に戻りました。

暑い日でしたが、林の中は風が吹くとさわやかで、アカトンボなどの昆虫を見ながら楽しく散策できました。

<観察できた昆虫>ギンヤンマ、コオニヤンマ、ウチワヤンマ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、リスアカネ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、キイトンボ、モンサシトンボ、ニイニイゼミ(声)、クマゼミ(声)、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ヒメタイコウチ、アオスジアゲハ、キチョウ、ウラギンシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ルリタテハ、コミスジ、イトモンジセセリ、セミヤドリガ(幼虫)、ヤマトタマムシ、コガネムシ、(昆虫以外は紙面の都合で省略)

(報告:齋竹善行)



(観察会のようす)



(ツクツクボウシとセミヤドリガ幼虫)